

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	41人	国語B	41人
② 算数A	41人	算数B	41人
③ 理科	41人		

5 留意事項

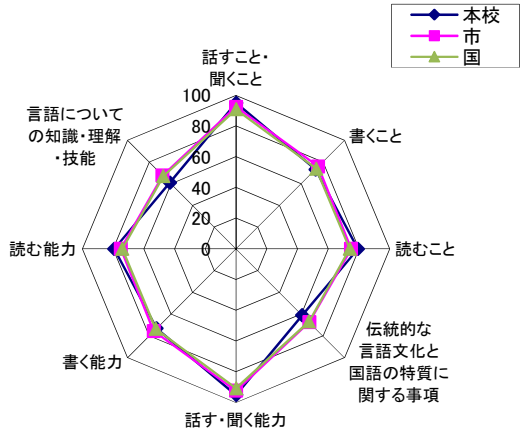
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

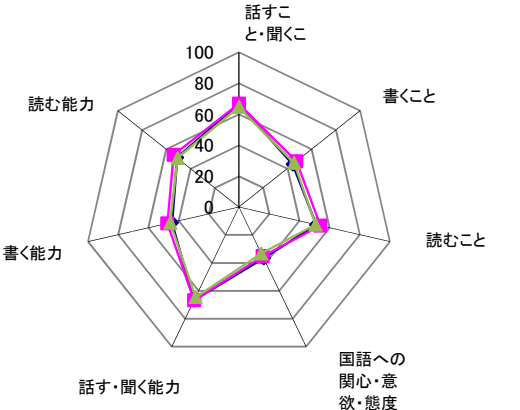
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	95.1	92.4	90.8
	書くこと	73.2	75.7	73.8
	読むこと	79.3	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.0	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	95.1	92.4	90.8
	書く能力	73.2	75.7	73.8
	読む能力	79.3	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	61.0	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	66.8	64.6
	書くこと	44.4	47.4	45.6
	読むこと	51.2	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	36.6	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.7	66.8	64.6
	書く能力	44.4	47.4	45.6
	読む能力	51.2	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

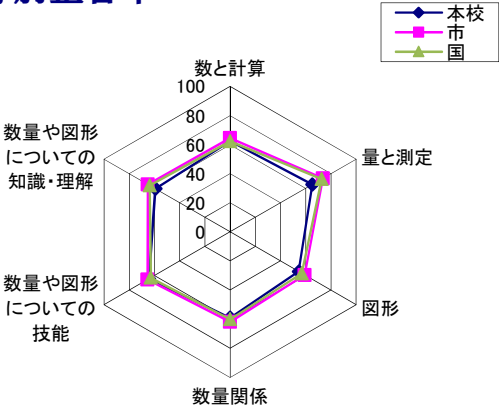
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aの「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」問題では、平均正答率が95.1%で全国平均の90.8%よりも4.3ポイント高かった。 ●国語Bでは、平均正答率が66.7%で全国平均の64.6%よりも2.1%高かった。ただし話し手の意見と比較して自分の考えをまとめる問題では無回答が14.6%で全国平均の6.2%を大きく上回っていた。	・相手の意見と比較したうえで、自分の考えをもち文章に表したり述べていたりしていくことができるよう、国語科だけでなく他教科の中でも、常に友達のことを聞く際のポイントを提示する。また、自分の考えに根拠をもち発言することができるよう日頃から相手の意見と自分の意見を比較しながら考えていく場を設ける。
書くこと	○国語Aでは平均正答率が73.2%で全国平均の73.8%と同程度であった。 ●国語Bにおいては、平均正答率が44.4%で全国平均の45.6%よりも1.2ポイント低かった。特に「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」問題で全国平均よりも11.3ポイント低く課題が見られた。	・文章を書く際のポイントを明確にし、目的や意図に応じて自分の考えを書けるようにして作文指導を今後も継続する。書いた後に、児童同士で読み合わせ、伝えたいことが的確に書かれているか確認する機会を設けていく。
読むこと	○国語Aでは平均正答率が79.3%で全国平均の74.0%よりも5.3ポイント高かった。 ○国語Bにおいて、平均正答率が51.2%で全国平均の50.8%と同程度であったが、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」問題では全国平均より8.7ポイント高い結果であった。	・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理できるように、キーワードに印をつけるなどの指導をし、読み取る力の定着を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aでは平均正答率が61.0%で全国平均の67.0%よりも6.0ポイント低かった。「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」問題は全国平均よりも21.9ポイント低く、敬語を使い分けるところに課題が見られた。 ●「漢字を文の中で正しく使う」問題では、全国平均とほぼ同程度であるが、無回答率が9.8%という結果であった。	・漢字の意味を正しく理解し、異なる熟語になっても対応できるようにする。自主学習などを利用し、語彙を増やす。 ・敬語を正しく使い分けしていくことができるよう、学校全体を通して今後も指導を継続する。さらに時と場に応じて敬語を使い分けられるよう、会話の中で教師が例を提示するなどの機会を設けていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

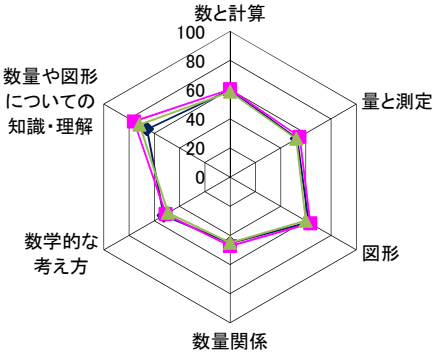
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.4	64.5	62.3
	量と測定	65.2	73.6	72.7
	図形	54.5	59.1	56.9
	数量関係	59.0	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	64.4	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	59.3	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.8	60.2	58.4
	量と測定	53.0	55.0	52.4
	図形	62.2	63.5	59.9
	数量関係	45.4	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	52.6	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	65.9	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

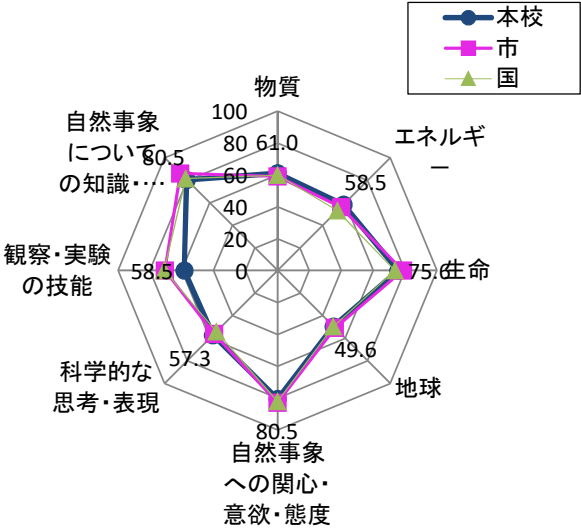
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数A、算数Bともに全国の正答率とほぼ同じである。 ○算数Aにおいて、数量関係を理解し、数直線に表す問題は、平均より高い正答率である。 ○算数Bにおいて、九九の表の横に並んでいる数の規則性について説明する問題では、全国の前答率より、11.2ポイント高い。 ●算数Aにおいて、1に当たる大きさを求める問題場面で、除数が1より小さい小数である場合でも、除数を用いることへの理解に課題が見られ、正答率が36.6ポイントと低かった。	・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じて、やや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう指導の充実を図る。
量と測定	●算数Bにおいては、全国の前答率とほぼ同じであるが、算数Aは、7.5ポイント低い。 ●算数Aにおいて、単位量当たりの大きさを求める除法の式や商を求める問題は、全国の前答率より16.0ポイント低い。	・除法を用いる場面については、6学年だけでなく、各学年の系統を踏まえ、積み重ねができるよう、螺旋的に指導していく。
図形	○算数Bにおいては、全国の前答率より高い。 ○算数Bにおいて、一つの点の周りに集まった角の大きさが360°になっていることを説明する問題は、全国の前答率より、10.3ポイント高い。 ●算数Aにおいては、全国の前答率より低い。 ●算数Aにおいて、円周の直径の長さが2倍になったとき、円周が何倍になるかを選ぶ問題は、全国の前答率より、9.3ポイントと低い。	・直径の長さや円周の長さとの関係について、復習問題に繰り返し取り組んでいく。
数量関係	○算数A、算数Bともに全国の前答率とほぼ同じである。 ●算数Bにおいて、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを記述する問題や、二つのグラフから読み取れることを判断する問題では、全国の前答率よりは高いが、正答率は40ポイントに満たず、低い。	・算数で学んだ内容を、理科の実験の表やグラフ、国語の説明文や社会の表やグラフなど、他教科の内容と関連を図りながら読み取る力を養っていく。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	61.0	59.0	59.8
	エネルギー	58.5	56.4	53.1
	生命	75.6	78.6	73.6
	地球	49.6	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	80.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.3	56.1	54.1
	観察・実験の技能	58.5	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	80.5	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○領域全体の平均正答率は61%で国平均の59.8%と比較して1.2ポイント低い。 ●ろ過の適切な操作方法を聞く設問では、平均正答率が58.5%で、国平均71.1%より12.6ポイント低い。 ●実験結果から言えることだけに言及した内容を説明する設問では、正答率が39%と低い結果であった。	・実験の意図を明確にすることで、実験計画の見通しを立てられるようにするとともに、適切な器具の使い方を身に付けられるように指導を充実させていく。 ・実験結果のまとめ方や考察の仕方を繰り返し指導したり、理科的な表現について繰り返し指導をして身に付けられるようにしていく。
エネルギー	○領域全体の平均正答率は58.5%で国平均の53.1%と比較して5.4ポイント高かった。 ○「電流の向きと大きさ」の設問では、平均正答率63.4%で国平均59.4%より4ポイント高い。 ●風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ設問の平均正答率は61%で、国平均の63.5%と比較して2.5ポイント低い。	・繰り返し実験をする中で、複数の回路について風が吹く方向を確かめたり、乾電池の接続の仕方に着目させたりするなど、体験を通して理解できるようにする。
生命	○領域全体の平均正答率は75.6%で国平均の73.6%と比較して2ポイント高かった。 ○「鳥の翼と人の腕のつくり」の設問の平均正答率は78%で、国平均の76.2%と比較すると1.8ポイント高い。 ●「人の腕が曲がる仕組み」の設問の平均正答率は56.1%と国平均の56.6%と比較して同程度と考えられるが、全体的に低い結果となっている。。	・関節の仕組みや骨と筋肉の関係などについて、模型を使って十分に考えたり試行したりできる時間を確保するとともに、資料の充実を図り、着実な理解につなげられるようにしていく。
地球	○領域全体の平均正答率は49.6%で国平均の49.5%と比較するとほぼ同程度であった。 ●「流れる水の働き」に関する設問の平均正答率は73.2%で国平均の83.6%と比較すると10.4ポイント低い。 ●実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述する設問では、正答率が17.1%と極めて低い結果であった。	・実際の川の様子を見に行く事は難しいため、資料の充実を図り特徴を読み取れるようにし、「浸食」・「運搬」・「堆積」のそれぞれの働きについて、流れる水の内側・外側・真ん中や山の中・平地・海の近くなどで比較しながら表などで整理して視覚的に理解できるようにする。 ・実験が終わった時に目的と結果を改めて確認し、分かったことや結果から言えることは何かを話し合ったり、整理したりする活動を充実させていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的回答の割合が97.5%と全国よりも13.5ポイント高い。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに肯定的回答の割合が97.6%と全国よりも12.3ポイント高く、教員に自分の良さを認められていると感じており、自己肯定感が高い。今後も教員全体で児童を褒め、認め、自己肯定感を高める指導を継続していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに「当てはまる」が100%であった。日頃の指導の成果と考える、引き続き指導していきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに「当てはまる」が87.8%、「どちらかといえば、当てはまる」が12.2%と肯定的回答の割合が100%となった。また、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という問いに肯定的回答の割合が78.0%で全国よりも14.2ポイント高く、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の問いに肯定的回答の割合が63.4%と全国よりも13.5ポイント高い。「どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか」ということを考えることができる児童を増やし、学びに向かう力をさらに伸ばしていけるように、クリーン活動等の奉仕活動や学外の方との交流活動、地域学校園あいさつ運動などの活動を通じた指導を継続していきたい。

○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の問いに肯定的回答の割合が90.3%と全国よりも13.6ポイント高い。また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の問いに肯定的回答の割合が65.9%と全国よりも4.9ポイント高く、「学級での友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の問いに肯定的回答の割合が85.3%と全国よりも7.6ポイント高い。児童が主体的に課題解決に取り組む指導の工夫を今後も継続して取り入れ、さらに学習意欲の高い児童を増やしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の問いに「1時間以上」と答えた児童の割合が58.6%と全国よりも7.6ポイント低い。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の問いに「している」と答えた割合も24.4%と低い。家庭の生活習慣の中に1時間以上の学習が位置付けられていくよう、家庭との連携を図りながら、継続的に取り組んでいきたい。

宇都宮市立岡本小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語に興味を持たせる指導の工夫と言語能力の育成	すべての学年で、言葉の特徴やきまりに関する学習内容に重点を置いた指導を行い、言語事項に関する重要語句や文法を繰り返し意識させ、言語に興味を持たせるとともに、その定着を図る。	言葉の学習に関する問題の平均正答率は、61.0%と市平均や県平均と比較してそれぞれ6.5ポイント、6.6ポイント低い結果となっており、敬語の使い方や主語と述語の関係性の理解が不十分な様子が見られる。
授業のねらいに対する振り返りの充実	授業の始めに本時のねらいを明確に示して児童1人1人に1時間の授業の見通しをもたせるとともに、授業の最後に振り返りの時間を設け、学習内容を整理して再確認し、確実に定着が図れるようにする。また、その一連の流れを全校体制で実施するため、共通のカードを作って掲示し、児童への更なる意識化を図る。	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、91.3%で市や県の肯定的割合に比べ、1割前後高い結果となっており、昨年度から継続的に取り組んでいる、児童が見通しを持って取り組む授業の推進が効果を表しているものと思われる。